



つきみ はなし お月見のお話 (小)



みなさん、こんにちは。今日はお月見のお話です。

お月見は中国で始まった行事です。そして千年くらい前に日本へ伝わり、宮廷では、月の詩や歌を作り、雅楽を聞きながら、お月見を楽しみました。

江戸時代になると、庶民にもお月見が広まり、月に見立てたおだんごや、たわわに実っているいなほに見立てたすすき、そして、さといもやくだものをお供えし、秋の収穫を感謝するようになりました。わたしたちも自然の恵みに感謝する心を大切にしていきたいですね。

今年の9月10日は「十五夜」です。

昔のこよみの十五夜は、今の8月15日の夜のことです。昔は月の満ち欠けでこよみを作っていました。昔のこよみでは8月は秋にあたり、一年の中でも、とくに月が美しいことから「中秋の名月」といわれています。

今日の給食は、お月見にちなんだ献立です。きれいな月が見られるといいですね。